



## 時刻アクセス

アクセス リストは、単一の番号が到達可能なリモート接続先にコールを延長すべきかどうかを決定します。時間ベースの制御とともに、時間ベースのアクセス リスト機能は別の決定要素を追加します。この機能により、管理者およびユーザは、コールを受信した時刻に基づいて、コールをリモート接続に到達させるべきかどうかを決定することができます。

Cisco Unified Communications Manager は現在、時刻ルーティング機能の時間帯およびタイム スケジュールに依存しています。時間帯は、開始時刻と終了時刻で定義される時間の範囲で構成されます。これには、曜日または年間の指定された日付の繰り返しの間隔も含まれます。タイム スケジュールは時間帯のグループで構成されます。既存の時刻ルーティング機能と整合性を保つには、時刻アクセス リスト機能はプロビジョニングされた時刻と同じ時刻を適用し、アクセス リストにタイム スケジュールを関連付けます。



(注) 時刻アクセスの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。

時刻アクセスは、[一括管理 (Bulk Administration)] メニューを使用して挿入、削除、およびエクスポートできます。BAT の [時刻アクセス (Time of Day Access)] メニューを使用すると、次の作業を実行できます。

- 時刻アクセスの挿入 (P.56-2)
- 時刻アクセスの削除 (P.56-3)
- 時刻アクセスのエクスポート (P.56-4)

## 時刻アクセスの挿入

BAT を使用して時刻アクセスを挿入する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

- 時刻アクセスには固有の詳細情報を含むカンマ区切り値 (CSV) 形式のデータ ファイルが必要です。
- P.2-5 の「ファイルのアップロード」の手順に従って、該当ターゲットとトランザクションのための機能を選択してデータ ファイルをアップロードします。

### 手順

- 
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [時刻アクセス (Time of Day Access)] > [時刻アクセスの挿入 (Time of Day Access Insert)] の順に選択します。[時刻アクセスの挿入 (Insert Time of Day Access)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リスト ボックスで、アップロードしたファイルを選択します。
- ステップ 3** 既存の設定を上書きするには、[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェック ボックスをオンにします。
- ステップ 4** [ジョブ情報 (Job Information)] セクションに、ジョブの説明を入力します。デフォルトの説明は、「Insert Time of Day Access」です。
- ステップ 5** 対応するオプション ボタンを選択して、ジョブをすぐに実行するか、後で実行するかを選択できます。
- ステップ 6** [送信 (Submit)] をクリックして、時刻アクセスを挿入するジョブを作成します。
- [ステータス (Status)] セクションのメッセージで、ジョブが正常に送信されたことが示されます。
- ステップ 7** このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。
- 



(注) 時刻の挿入には、時刻リモート接続用に作成したタイム スケジュールしか使用できないことに注意してください。

---



(注) BAT.xlt を使用して時刻の CSV ファイルを作成または編集できます。詳細については、P.A-28 の「時刻アクセス用のテキストベース CSV ファイルの作成」を参照してください。

---

### その他の項目

詳細については、P.56-6 の「関連項目」を参照してください。

## 時刻アクセスの削除

BAT を使用して時刻アクセスを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

- 時刻アクセス名が含まれたデータ ファイルが必要です。
- P.2-5 の「ファイルのアップロード」の手順に従って、トランザクションのための該当ターゲットと機能を選択してデータ ファイルをアップロードします。



**(注)** 削除トランザクション用に `bat.xlt` として作成したトランザクション ファイルを挿入またはエクスポートしないでください。代わりに、削除が必要な時刻アクセスの詳細情報が設定されたカスタム ファイルを作成する必要があります。削除トランザクションには、このファイルしか使用しないでください。このカスタム削除ファイルには、ヘッダーを指定する必要があります。名前、説明、ユーザの値を入力します。

### 手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [時刻アクセス (Time of Day Access)] > [時刻アクセスの削除 (Time of Day Access Delete)] の順に選択します。[時刻アクセスの削除 (Delete Time of Day Access Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 削除する時刻アクセスの検索条件 (カスタム ファイル内の名前) のドロップダウン リスト ボックスで、時刻アクセスを削除するためにアップロードしたファイルを選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 4** [ジョブ情報 (Job Information)] セクションが表示され、選択した時刻アクセスが示されます。
- ステップ 5** 対応するオプション ボタンを選択して、ジョブをすぐに実行するか、後で実行するかを選択できます。
- ステップ 6** [送信 (Submit)] をクリックして、時刻アクセスを削除するジョブを作成します。  
  
[ステータス (Status)] セクションのメッセージで、ジョブが正常に送信されたことが示されます。
- ステップ 7** [一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

### その他の項目

詳細については、P.56-6 の「関連項目」を参照してください。

## 時刻アクセスのエクスポート

BAT を使用して時刻アクセスをエクスポートする手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [時刻アクセス (Time of Day Access)] > [時刻アクセスのエクスポート (Time of Day Access Export)] の順に選択します。[時刻アクセスの設定 (Time of Day Access Configuration)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 最初の時刻アクセスの検索条件のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [名前 (Name)]
- [説明 (Description)]
- [ユーザ (User)]

**ステップ 3** 2 番目の時刻アクセスの検索条件のドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。

- [が次の文字列で始まる (begins with)]
- [が次の文字列を含む (contains)]
- [が次の文字列で終わる (ends with)]
- [が次の文字列と等しい (is exactly)]
- [が空である (is empty)]
- [が空ではない (is not empty)]

**ステップ 4** 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



**ヒント** データベースに登録されているすべての時刻アクセス レコードを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

**ステップ 5** クエリーをさらに定義するには、次のようにします。

- a. ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択し、ステップ 2～4 を繰り返します。
- b. [+] ボタンをクリックすると複数のフィルタを追加でき、[-] ボタンをクリックするとフィルタを削除できます。
- c. [フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックすると、すべてのフィルタを一度に削除できます。

**ステップ 6** [検索 (Find)] をクリックします。

検索されたファイルのリストが、次の項目別に表示されます。

- [名前 (Name)]
- [説明 (Description)]
- [ユーザ (User)]

- ステップ 7** [次へ (Next)] をクリックします。次の [時刻アクセスのエクスポート (Export Time of Day Access Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 8** [時刻アクセスのエクスポート (Export Time of Day Access)] セクションの [ファイル名 (File Name)] フィールドにファイル名を入力します。
- ステップ 9** [ファイル形式 (File Format)] ドロップダウン リスト ボックスで、[時刻アクセスの形式 (Time of Day Access Format)] を選択します。
- ステップ 10** [ジョブ情報 (Job Information)] セクションで、対応するオプション ボタンを選択して、ジョブをすぐに実行するか、後で実行するかを選択できます。
- ステップ 11** [送信 (Submit)] をクリックして、時刻アクセスをエクスポートするジョブを作成します。
- [ステータス (Status)] セクションのメッセージで、ジョブが正常に送信されたことが示されます。
- ステップ 12** このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。
- 

#### その他の項目

詳細については、[P.56-6](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [時刻アクセスの挿入 \(P.56-2\)](#)
- [時刻アクセスの削除 \(P.56-3\)](#)
- [時刻アクセスのエクスポート \(P.56-4\)](#)
- [時刻アクセス用のテキストベース CSV ファイルの作成 \(P.A-28\)](#)